【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【公開番号】特開2008-214813(P2008-214813A)
【公開日】平成20年9月18日(2008.9.18)
【年通号数】公開・登録公報2008-037
【出願番号】特願2007-55624(P2007-55624)
【国際特許分類】
Ａ４１Ｃ　3/12　(2006.01)
Ａ４１Ｃ　3/10　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　5/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４１Ｃ　3/12　Ｄ
Ａ４１Ｃ　3/10　Ａ
Ａ６１Ｆ　5/02　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成21年11月19日(2009.11.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
次に、本発明ハーフトップの構成素材について説明する。前身頃２、後身頃８には縦横両方向に伸縮性のある吸水速乾性を有するポリエステル、ポリウレタン地が使用できるが前身頃２，後身頃８には、伸縮性テープ６による引き締め効果を高めるため、高い弾性を有する伸縮性地を使用する。長さ方向に伸縮性を有する伸縮性テープ６は、ナイロン、ポリウレタン、ポリエステル糸等とゴム糸を織成して得られるが、本発明のハーフトップの製造にあたっては、伸縮性テープ６を適宜湾曲させることが製品を美しく機能的に仕上げるために重要である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
この伸縮性テープ６を湾曲させる方法としては、図１の湾曲部内側ａ、湾曲部外側ｂの織成において、ａの部分の伸縮性糸のタテ糸密度をｂの部分のタテ糸密度より少なくし、所定部分において、伸縮性テープ６が湾曲するようにする、或は、使用するポリウレタン糸の太さを変え、湾曲部内側ａに伸縮性が高い太手糸を使用し、湾曲部外側ｂには伸縮性の低い細手糸を使用することによって、伸縮性テープ６を湾曲させることもできる。伸縮性テープ６を身体のラインに沿い、余計な浮き上がりや身体皮膚への食い込みを防止するよう構成することで、フィット性を高め、両肩甲骨を引き寄せる効果が生じる。また、ハーフトップの前身頃、後身頃、脇布への伸縮性テープの縫着は、千鳥または平二本針で縫い目を平面状に形成することが望ましい。